



『鳥の分布はどのようにして決まるのか』



鳥のモズを使って調べる

自由に飛び回ることができるはずの鳥ですが、意外な地方に分布していたりいなかったりすることがあります。どのようにして、それぞれの種の分布は決まるのでしょうか。鳥が多い日本では、鳥によって鳥の種の生息状況が異なっていることがあります。日本本土に広く分布するモズは、奄美や沖縄の島には一般に生息していません。しかし、近年奄美群島の喜界島に侵入し、繁殖を始めました。この機をとらえて、モズがこの新しい島で生息可能な理由、また今後も増えて行き定着するのかどうかを調べています。

◀ 個体識別のため色足環を装着したオス。特別な許可を得て捕獲した。

亜熱帯ならではの試練

調べてみると鳥のモズは繁殖の失敗が多く、卵やヒナが捕食に遭っていると考えられました。有力な犯人はクマネズミです。このネズミは温帯では人家の周りにしかいませんが、亜熱帯の島では畑や藪にも暮らしており、鳥の巣を襲います。また、台風など嵐の時に巣が壊れ、落下してしまう事故も起きています。これら亜熱帯の島ならではの要因によって、モズは順調に増えてはいないようです。今後も推移を見守ることで、分布に関わる要因を明らかにしていきたいと考えています。



▲ 巣の卵を捕食するクマネズミ。人工の巣にウズラ卵を入れておき、センサーカメラで撮影した。(坂上・濱尾・森, 2011. 日本鳥学会誌60: 88-95より転載)



▲ 強い風雨のため落下した巣。巣立ち直前のヒナは地上に落下した。



▲ モズの育雛。巣内のヒナに大型のパツタを運んできたオス。

研究者に
聞いてみました!

1) 専門は何ですか

鳥類の行動生態学です。主にさえずりや繁殖について、今日見られる行動や生態が進化した理由を研究しています。

2) これから取り組んでみたい研究は

見ている世界が、鳥とヒトでは異なるようです。鳥の認知のしかたがわかってくれば、今まで理解できなかった行動や生態に説明

がつくのでは、ということを考えています。

3) 研究以外の趣味や熱中していることはありますか

詰将棋です。理詰めだけれど他人と同じ考えでは謎が解けないというところが、研究と全く同じです。

4) 今の職業に就いていなければ何をしたいと思いますか

もともと高校の教員で、40歳を過ぎてから博士号をとって博物館に移ったので、先生を続けていたと思います。

